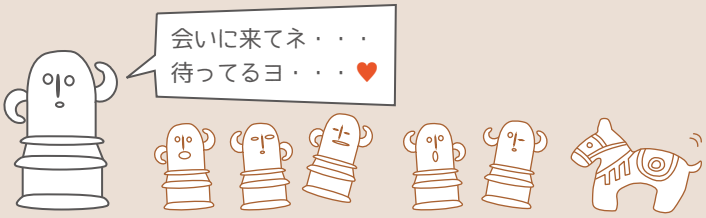
広報みと
令和4年1月1日号
第1517号



水戸の時空をひとまたぎ

第10回

よく知る埴輪とよく出る埴輪

埴輪は、多くの方がその形を想像できるほど親しまれる遺物ではないでしょうか。しかし、埴輪は、古墳などの限られた遺跡からしか出土しない稀有な存在であり、加えて、人などを象ったものは少数なのです。

問合せ／埋蔵文化財センター（☎269・5090）

①牛伏4号墳埴輪列（くれふしの里古墳公園）　②挂甲をまとう男子
③両手を腰にあてる男子　④水鳥形埴輪　⑤飾り馬　⑥鶏形埴輪

出土する埴輪のほとんどは、皆さんが想像するような、人などを象った「形象埴輪」ではなく、土管のような形をした「円筒埴輪」です。円筒埴輪は、弥生時代に岡山県周辺でつくられた、特殊器台という筒形の土器が元になっています。特殊器台には美しい文様や彩色があり、日用品としての土器とはかけ離れたものでした。この土器が古墳時代の祭祀に取り入れられ、やがて円筒埴輪を形作ったと考えられています。古墳の墳丘には、円筒埴輪が死者と生者の領域を分ける柵のようにずらりと立ち並びます。死者が眠る聖域を厳重に区画し、護るためのものです。

墳丘全体をめぐるように配置される円筒埴輪に対し、形象埴輪は、その一部に並べられる少数派です。死者が生前所有していた財や、葬送儀礼の様子を描写するためのものと考えられていて、人物、家形、器財、動物などの種類があります。いずれも細部まで作りこまれており、製作者のこだわりを垣間見ることができます。また、その造形は、髪形や服装、馬具など当時の姿を知るための重要な手がかりにもなります。

市内の古墳からは、市指定文化財「挂甲をまとう男子」、はに丸タワーのモデル「両手を腰にあてる男子」といった人物埴輪をはじめとして、水鳥、飾り馬、鶏などの形象埴輪が出土しています。「もし、彼らと言葉を交わせたら…」そう思わせるほどに、人物埴輪たちの表情は、個性的で豊かなものばかりです。彼らに会いたくなったら、ぜひ、埋蔵文化財センターへ。

埋蔵文化財センター　米川暢敬

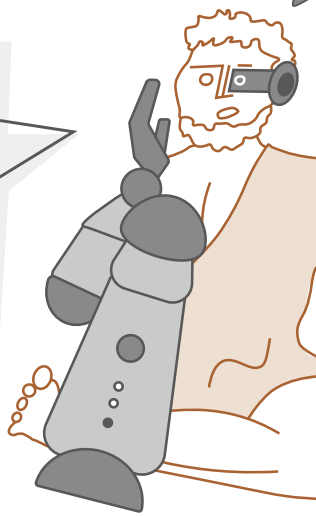
ダイダラボウのひとりごと
～古墳時代のヘアスタイル！～

古墳時代の人たちがどんな髪形をしていたのか、その手掛かりが、人物埴輪にあるんだ！

男子の埴輪（1・2）の多くは長い髪を二つに分けて耳の後ろで束ねる「美豆良（1）」という髪形をしているよ。髪のまとめ方、長さや太さも違っているから、オシャレポイントだったんだろうね。

女子の埴輪は、頭頂部や後頭部で髷を結っているもの（3・4）が多いね。葬送儀礼に関わった巫女と考えられているよ。

埋蔵文化財センターの展示室の埴輪で、後頭部で髷を結っている「両手を挙げる女子（5）」は、現代の芸術家に、版画のモデルにしてもらったこともあるんだって！僕と似てる髪形の埴輪、見つかったりしないかなぁ。



７月号では特撮ヒーローに扮したダイダラボウY。今回はメカになったよ！

水戸市の人口　人口…270,431人（男132,439人、女137,992人）　世帯数…124,149世帯　－令和3年12月1日現在 推計（令和2年国勢調査確定値基準）－

【発行】水戸市　☎029・224・1111（代表）
〒310～8610　水戸市中央1～4～1
ホームページ／https://www.city.mito.lg.jp
【編集】みとの魅力発信課　☎029・232・9107
FAX029・224・5188　✉kouhou@city.mito.lg.jp